

炭窯作りへの挑戦

(5月下旬～6月中旬)

夏の炎天下の中、炭窯作りの作業が開始されました。本当は、冬が来る前か春先の乾燥した時期に作るのが望ましいとのことですが…。まず、コンクリートで枠を作り、整地から始めました。

(整地)



(6月中旬～7月上旬)

整地が終わり、レンガと土などで炭窯の枠を作ります。この作業も空気漏れがないように丁寧に緻密な作業が行われていました。

(レンガで窯の形をつくる)



(7月17日)

炭焼き用の木を学校林から切り出す作業です。地元の専門の方の協力を得て、窯の高さに合わせて木の長さをそろえたり、薪にしたりとこれもまた、力のいる地道な作業でした。

(炭を焼く木の切り出し)



(7月18日)

まず、下の空気の移動をよくするために、竹を細かく割って敷き詰めます。次に長さのそろえた木を隙間なく並べていきます。そして、隙間なく並べた木の上に、さらにドーム上になるように小さい木を敷き詰めて、屋根を作っていきます。

(炭窯に木をつめる)



(7月21日)

炭窯の屋根を作ります。セメントなどを混ぜた土で屋根状に作った木の上から土を盛り、小槌でたたき固めていきます。なめらかになるまで、叩きます。これも根気のいる作業です。

(炭窯の屋根作り)



(7月22日)

屋根が崩れないように、自然乾燥させます。

(自然乾燥させる)



(7月23~25日)

屋根を固めるために、低めの温度で3日間火を欠かさず焚きます。

(炭窯入口で火をたき乾燥〈終日〉3日間)



火の神様

(7月26日)

乾燥させた窯に火を入れ、第1回の炭焼きが開始しました。これでとりあえず、炭窯の完成です。夏の炎天下の中、ずっと作業していただいた方に感謝して、これを日浦の伝統として引き継いでもらいたと思います。「おやじの会」のメンバーのみなさま本当に暑い中の作業ありがとうございました。

(火入れ)



(8月4日)

火入れから1週間経ちました。無事、第1回炭焼き作業が終わり、生徒とともに炭出し作業をして、炭になっているものとなっていないものに分けました。今回、コンテナ11箱分の炭ができあがりしました。

